

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者		歴史まちづくり推進担当担当課長 不破 寛和	
歴史-04	実施事業	日本遺産事業	☒ 自治事務	主管課	歴史まちづくり推進担当
			☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	歴史的遺産と共生するまちづくり	施策の方針	歴史的遺産と共生するまちづくり	

1 事業の目的

対象	鎌倉の歴史的遺産
意図	鎌倉の有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用するため。
効果	鎌倉の魅力を国内外に発信することにより、歴史的遺産と共生するまちの実現が図られる。

2 平成28年度に実施した事業の概要

・平成28年4月に鎌倉の日本遺産ストーリーが認定された後、6月に日本遺産いざ鎌倉協議会（事務局：歴史まちづくり推進担当）を設立し、日本遺産の事業を実施する体制を整えた。また、庁内プロジェクトチームを設置し、庁内連携・協力の下、事業に取り組んだ。 ・日本遺産いざ鎌倉協議会において、鎌倉の日本遺産のストーリーを紹介するブックレットの作成、雑誌掲載及びリーフレットの作成、映像の放映及び制作を行い、配付等を開始した。また、日本遺産のストーリー等を紹介する外国語ガイドを育成するため、講習会及び実地研修を行った。 ・日本遺産いざ鎌倉協議会主催による「日本遺産いざ鎌倉フォーラム」を実施した。（平成29年3月26日） ・ホームページ、民間情報誌、メディア等を活用して、日本遺産に関する情報発信を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口 世 帯 数 事業の対象者数	177,243人 80,676世帯	人 口 世 帯 数 事業の対象者数	176,466人 81,150世帯	・各年3月31日 (住民基本台帳)
運営資源状況	決算値(千円) 国県支出金 地方債 その他 一般財源 人員配置数 人件費(千円)	0 43 0 0	当初予算(千円) 国県支出金 地方債 その他 一般財源 人員配置数 人件費(千円)	290 290 0.8 6,217	
事業経費運営	総事業費(千円) 市民1人当りの経費(円) 対象者1人当りの経費(円)	0 43 0	総事業費(千円) 市民1人当りの経費(円) 対象者1人当りの経費(円)	6,507 37	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	1. 廃止・休止による影響はない
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△. 負担未導入 △-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済 協働実施済の場合のパートナー
		日本遺産いざ鎌倉協議会（鎌倉市観光協会、鎌倉商工会議所、鎌倉風致保存会）
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直しの種類 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 事業へ統合
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 予算額については、協議会の事務経費に対する負担金等、必要最低限のみ計上しており、削減等の余地はないと考えている。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	日本遺産の具体的な事業については、市内関係団体で構成する日本遺産いざ鎌倉協議会で実施しており、歴史まちづくり推進担当は事務局を担っている。事業実施にあたっては、関係団体や関連部局とも連携しながら、取り組んでいることから、今後、関連事業と統合することは可能であると考えているが、今後の日本遺産制度について、国の動向も見極めながら検討する必要がある。 日本遺産事業に取り組むことで、観光振興、地域活性化に寄与することが見込まれ、本市がめざす歴史的遺産と共生するまちづくりに繋がることから、今後も事業を推進したいと考えている。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・鎌倉の日本遺産ストーリーを活用して、鎌倉の魅力や価値をより深く理解してもらい、観光客の満足度向上につなげるため、様々なツールを用いた積極的な情報発信等に取り組む必要がある。 ・鎌倉の歴史や文化について、市民や観光客に対して理解を深めてもらうとともに、「歴史的遺産と共生するまちづくり」についての意識高揚を図っていく必要がある。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	・平成28年4月に鎌倉の日本遺産ストーリーが認定された後、6月に日本遺産いざ鎌倉協議会(事務局:歴史まちづくり推進担当)を設立し、日本遺産の事業を実施する体制を整えた。また、庁内プロジェクトチームを設置し、庁内連携・協力の下、事業に取り組んだ。 ・日本遺産いざ鎌倉協議会において、鎌倉の日本遺産のストーリーを紹介するブックレットの作成、雑誌掲載及びリーフレットの作成、映像の放映及び制作を行い、配付等を開始した。また、日本遺産のストーリー等を紹介する外国語ガイドを育成するため、講習会及び実地研修を行った。 ・日本遺産いざ鎌倉協議会主催による「日本遺産いざ鎌倉フォーラム」を実施した。(平成29年3月26日) ・ホームページ、広報かまくら、民間情報誌、メディア等を活用して、日本遺産に関する情報発信を行った。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	関連部局、関連施設との連携を図りながら、継続的な情報発信等を行い、「歴史的遺産と共生するまちづくり」についての意識高揚を図っていく必要がある。また、国の補助金が認定後3年間で終了するため、協議会の自立化を促す必要がある。	

比較事項	日本遺産認定自治体								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○					○			

団体名	横浜市	川崎市	伊勢原市	厚木市	大和市	海老名市	座間市	綾瀬市	秦野市
他市実績			○						

比較事項	日本選手総選手権								
団体名	南足柄市								
他市実績									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	市民意識調査「鎌倉に住み続けたいかどうか」(市民の市への愛着度)の回答率					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
当該事業の実施により、市民が本市に住み続けたいと感じてもらったため。 また、日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化を測る指標として文化庁が設定しているため。	目標値			100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値			86.5						
	達成率			86.5%						

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	日本遺産事業を実施することで、観光振興事業等に寄与することが期待されるため、今後も市民や観光客に対して、鎌倉の魅力や価値をより深く理解してもらうための情報発信などの取組を行い、満足度及び愛着度の向上に努めていく。	
------------------------------	---	--